

2023 年 7 月 5 日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【化学】他社牽制力ランキング 2022

トップ 3 は富士フイルム、三菱ケミカル、花王

弊社はこのほど「化学業界」の特許を対象に、2022 年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「化学業界 他社牽制力ランキング 2022」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において、競合他社が権利化する際に阻害要因となる「先行技術」を多数保有している先進企業が明らかになります。

集計の結果、2022 年に最も引用された企業は、1 位 **富士フイルム**、2 位 **三菱ケミカル**、3 位 **花王**となりました。

【化学業界 他社牽制力ランキング 2022 上位 10 社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	富士フイルム	3,959
2位	三菱ケミカル	2,021
3位	花王	1,692
4位	積水化学工業	1,254
5位	日東電工	1,205
6位	旭化成	1,100
7位	レゾナック	1,080
8位	住友化学	923
9位	D I C	759
10位	信越化学工業	736

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2022 年 12 月までに公開された全特許のうち、2022 年 1 月～12 月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計をしています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2023 年 5 月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1 位 **富士フイルム**の最も引用された特許は、昨年と同様に「駆動耐久性及び発光特性が良好な発光素子」に関する技術で、半導体エネルギー研究所などの計 10 件の審査過程で引用されています。このほかには「色再現性が高く、虹ムラの発生が抑制された液晶表示装置」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、大日本印刷などの計 8 件の拒絶理由として引用されています。

2022 年に、富士フイルムの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はキヤノン（222 件）、次いでコニカミノルタ（117 件）となっています。

2 位 **三菱ケミカル**の最も引用された特許は「ポリプロピレンフィルムを基材とした高性能ガスバリア性フィルム」に関する技術で、大日本印刷の計 7 件の審査過程で引用されています。このほか「航空機用材料用途にも好適な繊維強化複合材料」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、東レなどの計 6 件の拒絶理由として引用されています。

2022 年に、三菱ケミカルの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業は大日本印刷（62 件）、次いで日東電工（39 件）です。

3 位 **花王**の最も引用された特許は「歯磨剤用顆粒の製造方法」に関する技術で、SUNSTAR SUISSE の計 5 件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2022 年に、花王の特許により影響を受けた件数が最も多い企業はユニ・チャーム（115 件）、次いで大王製紙（59 件）となっています。

4 位 **積水化学工業**は「有機エレクトロルミネッセンス表示素子用封止剤」、5 位 **日東電工**は「光学部材および画像表示装置」が、最も引用された特許として挙げられます。

* * *

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【化学業界 他社牽制力ランキング 2022 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データ一式を収録した CD-R での御納品をご希望の場合はご相談ください）

・ランキング トップ 50 社：本業界の被引用件数上位 50 社のランキング

・被引用件数 トップ 100 件：本業界の被引用件数上位 100 特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000 円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL : <https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail : info@patentresult.co.jp